

「ア、伊八とん聞いてたか」

「聞いてたかやおまへんで、甚い騒動だつせ、隣に泊つて居るお侍がその小柳彦九郎やと云ふて今横越に聞いたから仇討をすると、先方から名乗つて来るか、來ねば此方から乗込ふか何方に致す返答を聞いて參れと」

「ア、甚い事を云ふたなア、伊八とん嘘や／＼首が附いとるか知らん、あんぢよう斷りを云ふて、此の顔を見て、女の惚れる顔かゝるな、艶事惚氣話と云ふたんで、此の前三十石船であんな話を聞いたんで我事の様子に作つて云ふたんや、今のは嘘や、斷つて」

「仕様もない事を云ひなはん、貴方より私がビックリしましたがな、嘘を吐くにも事によりますがな、一度お侍にそう申します……ヘイ旦那さん」

「伊八か、先方より名乗つて參るか」

「ヘエ、左様申しましたら、あれは嘘や、前方三十石船であ、云ふ話を聞いたので、それを我事の様子に云ふたるぢやと申して居ります、あれは嘘で」

「ナニ嘘ぢやと、イヤ町人と申す者は卑怯未練な、一旦自白な致しておきながら、今更嘘なぞとは卑怯千萬、伊八案内を致せ、拙者が乗込んで參る」

「モン旦那さん、暫くお待ちを願ひます、私の方で左様な事が御座りましては、彼の宿で仇討があつ

た、人殺しがあつたと云はれましては、家の暖簾にも關る事で御座ります、どうぞ暫く御猶豫を」

「伊八、其處へ氣の附かざる拙者でもなかりしが、討ち度い／＼と思ふ心が先立つて何の考へも無く申した、鹿追ふ獵師山を見ずの譬、然らばかよう致さう、出會仇に致さう」

「出會仇と申しますと」

「出會ふ場所は何處がよいか」

「出會ふ場所は……」

「明早朝……」

「崇禪寺馬場に於て」

「コリヤ、馬鹿を申すな、明早朝日本橋に於て出合討ち、今宵三人の中一人たりとも逃しなば、伊八其の方の首は胴に附いて居らんぞ、助太刀は幾何萬人あらう共、死人の山を築いてくれん、明朝まで確と番を致せ」

「フアイー、サー甚い事になつて來たぞ、今度は此方の首が危ふなつて來た……ヘイ御免」

「伊八とん、どうなつた」

「あきまへん、明日の朝日本橋で出合討ちに致すと云ふてはります」